

ディスペンセーションナリズム

V.S. 契約神学

解 答

	ディスペンセーションナリズム Lewis S. Chafer, John Walcoord, Tim LaHaye, John Nelson Darby, C. I. Scofield	契約神学 Charles Hodge, Loraine Boettner, Louis Berkhof, John Murray, B. B. Warfield
1	アルメニウス主義か温厚なカルビン主義。5ポイントの支持者は、ほぼいない。	常にカルビン主義。ほとんどがカルビン主義の5つのポイントを支持する。 <カルビン主義の5ポイント> T：全的墮落、U：無条件の選び、L：限定的贖罪、I：不可抗的恵み、P：聖徒の堅忍
2	聖書本文を釈義した結果、聖書には8つの契約が記録されていると主張する。これを「聖書の契約」という。	神学的な枠組み（前提）が最初あって、その体系の中で3つの契約を想定する。「行いの契約」、「贖いの契約」、「恵みの契約」がそれである。最も強調されるのは、「恵みの契約」である。
3	8つの聖書の契約の中には、2つの条件付き契約と6つの無条件契約がある。	聖書にある諸々の契約を、すべて「恵みの契約」に集約しようとする。
4	聖書が書かれた目的は、「神の栄光」である。	聖書が書かれた目的は、「人類の救い」である。
5	一貫した字義通りの解釈を主張する。比喻は比喻として解釈する。	字義通りの解釈と比喻的解釈が混在する。比喻的解釈の度合いは、人によって異なる。
6	「信仰の類似」（Analogy of Faith）の使用は、限定的である。厳密に釈義をした後に、その釈義が正しいかどうかを吟味するために、「信仰の類似」を用いる。	「信仰の類似」を積極的に用いる。
7	イスラエルとは、常に文字通りのイスラエルを意味する。アブラハム、イサク、ヤコブの肉体的子孫である。	イスラエルとは、文字通りのイスラエルか、霊的イスラエルである。どちらを意味するかは、文脈によって判断する。
8	イスラエル論を展開する可能性が開かれている。	イスラエル論を展開する可能性は閉ざされている。

	ディスペンセーションナリズム Lewis S. Chafer, John Walcoord, Tim LaHaye, John Nelson Darby, C. I. Scofield	契約神学 Charles Hodge, Loraine Boettner, Louis Berkhof, John Murray, B. B. Warfield
9	ガラテヤ6：16の「神のイスラエル」とは、ユダヤ人信者のことである。	ガラテヤ6：16の「神のイスラエル」とは、靈的イスラエルのことである。ガラテヤ3：29、ローマ2：28～29、ピリピ3：3と関連している。
10	神の民には2種類あり、それぞれ役割が異なる。イスラエルと教会がそれである。	神の民は常に一つである。神の民である教会は、徐々に発展した。
11	どの時代であっても、救いの方法は変わらない（信仰義認）が、信仰の内容は変わる。漸進的啓示によって、啓示の量が積み重なっていくからである。	どの時代の聖徒たちも、同じ内容のことを信じて救われた。
12	モーセの律法は、キリストの死とともに終わった。	モーセの律法の中の祭儀法やイスラエルの神政政治に関係した律法は終わったが、道徳法は今も有効である。
13	教会は、ペンテコステの日に誕生した。	教会は旧約聖書において始まった。使徒7：38の「荒野の集会」（エクレシア）。新約聖書においてそれが成就した。
14	教会は、旧約聖書では預言されておらず、新約聖書において初めて啓示された。それゆえ、教会は「奥義」である。	旧約聖書には、教会に関する預言がたくさんある。
15	旧約聖書にあるイスラエルに関する預言は、すべて文字通りのイスラエルに関するもので、教会に関するものではない。	旧約聖書にあるイスラエルに関する預言には、文字通りのイスラエルに関するものと、靈的イスラエルに関するものがある。
16	ユダヤ人信者は、教会の一員であると同時に、ユダヤ民族の一部でもある。	ユダヤ人信者が教会の一員であることは認めるが、ユダヤ民族の一部であるかどうかに関しては、認める者と認めない者がいる。